

カレッジ通信

発行
東京建築
カレッジ

授業見学
大歓迎！

Tel
03-
5950-1771

東京建築カレッジは、8月10日～12日、東京国際フォーラムで開催される「ものづくり匠の技の祭典2016」に参加します。東京都が中心となり主催するもので、「日本を支えてきた伝統的な匠の技と最先端のものづくり技術の魅力を発信する」（公式ウェブサイト）イベントです。「衣・食・住（暮・建）」の各ゾーンで構成、建築カレッジは、住ゾーンで木造建築の上棟を実演します。

真夏の東京国際フォーラムで、 上棟を実演します！

8月10日（水）～12日（金）

「ものづくり匠の技の祭典 2016」

東京都は、東京都職業能力開発協会や東京都伝統工芸品産業団体連絡協議会などと実行委員会をつくり、8月10～12日、東京国際フォーラム地下2階のホールで「ものづくり匠の技の祭典2016」を開きます（入場無料）。このイベントは衣・食・住（暮・建）・工のさまざまな分野の優れた技を海外からの観光客を含めて多くの方に紹介するために企画されたもので、日本の伝統的な建築の技の次世代への継承に取り組み、東京建築カレッジにも全建総連東京都連を

高まりから、木造建築の値打ちが今、見直されています。カレッジでは森林大国・日本が育んだ木の家の魅力をアピールする絶好の機会であると考え、このイベントの成功に全力を上げます。

ものづくり匠の技の祭典 2016 検索

<http://www.monozukuri-takumi-expo.tokyo/>

介して参加要請があり、指導員の先生方が上棟の実演を行うことになりました。

上棟は会期中、毎日披露します。「日本の家を築き上げる」という展示のメイソンに位置付けられ、多数の来場者から注目を浴びそうです。日本の風土に合った自然に優しい建築を求める意識の高まりから、木造建築の値打ちが今、見直されています。カレッジでは森林大国・日本が育んだ木の家の魅力をアピールする絶好の機会であると考え、このイベントの成功に全力を上げます。

青年技能競技大会 東京予選 7月24日（日） 現役生から5人

「四方転び踏み台」を課題とする全国青年技能競技大会（全建総連主催）は、技能五輪に並ぶ建築大工の技を競うビッグイベントです。今年も東京予選が近づいてきました。予選出場は31人。建築カレッジからは、現役生5人、卒業生7人の計12人が全国大会（東京予選上位4人が出場）を目指します。

今年のポイントは大野成美さん（第19期生）に続き、現役生から全国大会（東京予選上位4人が出場）を目指します。



写真：昨年8月開催の東京予選。写真右は小林さん、左は大野さん。

大会参加が勝ち取れるかどうか。2回目の出場の小林貴志さん（第20期生）をはじめ、練習の成果がどのように発揮されるか、注目です。全国大会で過去三回、銀賞を受賞した氏平達也さん（カレッジ指導員、第11期生）や、技能五輪で銅賞受賞経験のある千葉幸大さん（同、第10期生）、昨年の技能五輪で敢闘賞の浅見拳太さん（第18期生）らカレッジ卒業生の高度な技も間近で見ることが出来ます。見学は大歓迎。ご連絡ください。

☆日時 7月24日（日）
☆東京都立多摩職業能力開発センター府中校。

「片岡茂樹先生が出演 TOKYO匠の技」建築大工編 DVD完成

東京都は、「TOKYO匠の技」継承事業で、熟練技能者の優れた技能を取材し、動画形式で公開しています。「建築大工」編は、東京建

築カレッジ教務運営委員・2年生指導員責任者の片岡茂樹先生が取り上げられ、中堅技能者向けに匠の技術を紹介するDVDがこのほど完成しました（43分）。ご希望の方にDVDを贈呈します（本数に限りがあります）。ご希望の方はカレッジまでご連絡ください。



報告☆全国職業訓練校交流集会 in 函館

東京建築カレッジは、厚生労働省所管・東京都認定の職業訓練校の一つです。6月16、17日に、北海道函館市で「第44回全国職業訓練生交流集会」が開かれ、研修生4人、講師・指導員2人、事務局3人が参加しました。

この交流集会は、カレッジの母体、東京土建一般労働組合が加盟する全建総連が毎年開いているもので、今回は18県連・組合、17訓練校から合計約110人（うち訓練生50人）が集まりました。カレッジは、2年生（20期生）から芳賀利也さん、松原正統さん、



（左写真）班ごとに討論内容を発表。左から2人目は、1年生の吉田竜人さん

1年生（21期生）から今野善光さん、吉田竜人さん、佐々木雄司指導員（1年生責任者）、関昌彦講師（「構造力学」担

当）が参加しました。初日は恒例のミニ弁論大会が行われ、カレッジ生を代表して、芳賀利也さん（写真）が、芸能界



「新規入職者を増やす為にはどうしたらいいか」をテーマに6班に分かれて班別交流も行われました。ほとんどの班が、他の産業に比べて労働条件が低く、危険を伴い、きつい仕事である事を問題視。賃金や休日の改善などが急務であると訴えました。職人気質の悪い部分の是正、人材育成の近代化の必要性、マスメディ

アやインターネットを活用した広報・啓発の重要性に言及した班もありました。

今回初参加の先生方から。

「カレッジの教育内容が相対的に高い水準であることを実感できた。生徒の気質はあまり変わらない」（佐々木）、

「普通科訓練校と違い2級建築士の受験資格を修了後すぐに取れるメリットは大きい。廻り階段実習にしてもほぼ実物大でいくつもできる。教育内容も大工だけではない広がりがある。カレッジ生は恵まれている」（関）。



20期生（2年生）の授業から



「待合」班の途中経過発表（6月4日の「卒制ゼミ」）

「お客様に木の良さを伝えてほしい」。林業家・井上淳治氏の話に真剣な表情のカレッジ生。



2年生は「卒業制作」を具体化しなればなりません。月に一度の「卒制ゼミ」ではテーマ・コンセプト論議が活発化しています。今後変更の可能性は十分ありますが、「世界遺産の犬小屋（仮）」、「お社（やしろ）」、「待合」などが題材に上がっています。6月25日には、下草刈りを体験する林業実習（上写真）を行いました。

実習先の埼玉県南西部・西川材産地で

21期生（1年生）の授業から

は、志を共有する設計・施工者とも連携した市場創造型の取り組みが進んでいきます。その中心人物、飯能市の林業家、井上淳治さん（「木楽里」代表）からは「木の家づくりに携わる君たちこそ、木の魅力を語れる人になってもらいたい」と激励されました。

1年生は、継手・仕口の学習の総仕上げとなる「カレッジフレーム」を課題とする授業が7月2日に最終回。7月中旬からは「木造軸組み実習」という授業がスタート。自分たちの手で小さな小屋を組み上げる実習です。そして秋からは伝統構法も取り入れた実習棟づくりが始まります。

学科・実技共に授業見学は大歓迎。事前にご連絡ください。